

2 めざすべき方向

(1) 生涯にわたる学び「学びの循環」

現在は、「学び」の捉え方も多義的になっており、講義形式で知識をインプットする「学び」だけではなく、疑問を持ち、課題を見つけ、考えを発信し、他者と共に考え、新たな考えを創造するといったことも「学び」の重要な要素になっています。学びを一過性のものにせず、その成果を自らの日常生活や仕事にいかしたり、地域の課題解決のための活動につなげ、その中でさらに学びを深めたりすることにより、「学びの循環」が生み出されます。また、「学びの循環」で学んだ成果を活用することを通じて、誰もが「教わった」ことを、誰かに「教える」ことができるといった循環が生まれることも期待できます。



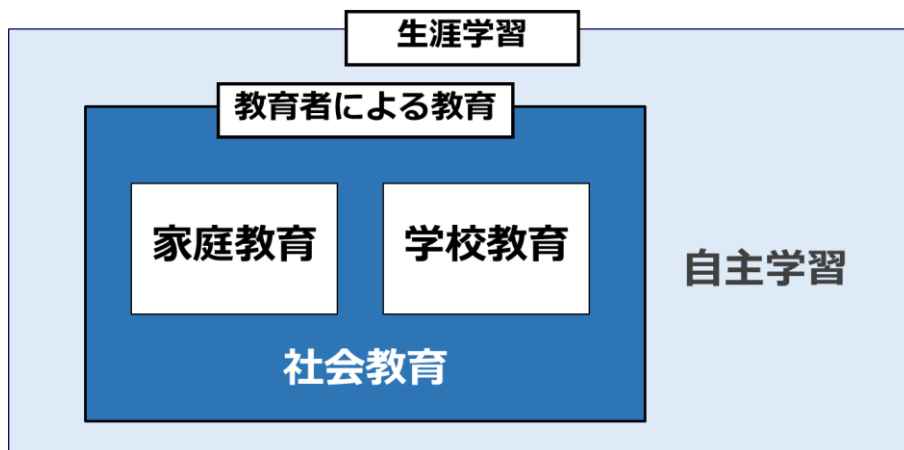
板橋区では、すべての世代を対象として「人生100年時代」に人に必要とされる資質・能力として「主体的に課題を発見し、解決に導く力」、「協働して課題解決に取り組む力」、「失敗を恐れずチャレンジする力」を身に付けることを支援していきます。

また、生涯にわたって学習することができる機会や場所を提供するために、社会教育の充実を図り、社会教育、家庭教育、学校教育が連携・協働することを推進していきます。さらに、社会教育、家庭教育、学校教育が連携・協働して創り出す「学びの循環」を通じて、板橋区のめざす将来像を実現していきます。



生涯学習と社会教育

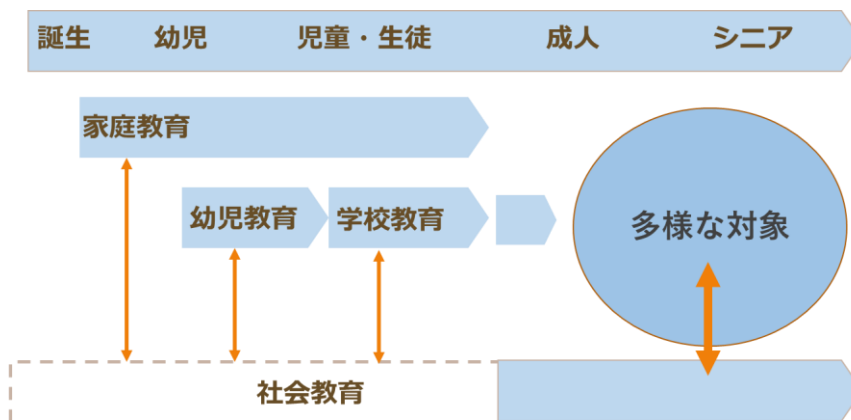
「生涯学習」は、各個人が行う組織的ではない学習（自主学習）のみならず、社会教育や学校教育において行われる多様な学習活動を含め、一人ひとりがその生涯にわたって自主的・自発的に行うことを基本とした学習活動と考えられています。



そして、教育基本法第3条は、生涯学習の理念として「国民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切にいかすことのできる社会の実現が図られなければならない」と定めています。

また、「社会教育」は、「学校の教育課程として行われる学校教育や家庭教育を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）」と定義されています（社会教育法第2条）。社会教育は、すべての世代を対象として、家庭教育、学校教育とも連動して人々の学びを支える教育であるといえます。

その役割として、家庭教育との関係では、孤立しがちな保護者などに対する支援、学校教育との関係では、学校外、教育課程外での体験活動や地域活動のほか、社会人やシニアも含む多様な対象の関わりとしては、大学や関係団体・機関・施設との連携などが考えられます。



社会教育は、すべての世代を対象としながら、家庭教育や学校教育とは連携・協働する性質を持っている。

「いたばし学び支援プラン 2021」における取組と成果

重点施策 8

生涯学習社会へ向けた取組の充実



新中央図書館外観

中央図書館の改築及び事業の拡充 ー

図書館資料の充実や ICT の導入を図り、多様な区民ニーズに応える施設として改築を進め、令和 3 (2021) 年 3 月 28 日に新中央図書館がリニューアルオープンしました。新中央図書館は平和公園と一体的に整備されており、心地よい環境の中で読書などを楽しむことができます。また、平和公園では様々なイベントが開催されており、そのイベントを通じて、多様な交流の促進や板橋区独自の

魅力を内外に発信できる施設となっています。

今後は、併設されたいたばしボローニャ絵本館とともに事業の拡充を図ります。また、ボローニャから寄贈された貴重な国際絵本などをいかし、子どもから大人までを対象とする、区のブランド戦略の発信拠点の一つとして様々な事業を行っていきます。

中高生・若者支援の拡充と活性化 ー

平成 28 年 10 月に世代を問わず主体び、活動できる生涯学習の拠点として、育会館を改め、生涯学習センターを開した。

生涯学習センター内に新たに整備さ youth(あい・ゆーす)」は、「中高生・若動や学習支援の場」、「中高生・若者の居場て、年間最大 3 万人を超える中高生・若者に利用されるようになりました。

「i-youth(あい・ゆーす)」では、利用者である中高生・若者の自己実現に向けた活動の支援も行っており、「ダンスフェスタ」は中高生・若者が主体的に企画・運営に参画した代表的なイベントです。また「i-youth(あい・ゆーす)」は、安心して過ごすことができる、学校・家庭以外の「第三の居場所」として、中高生・若者に親しまれています。



i-youthダンスフェスタの様子

的に学
社会教
設しま

れた「i-
者の活
所」とし

解説



教育の
板橋

新しい価値を創造する社会教育施設

中央図書館

ち
ゆ
う
お
う
と
し
よ
か
ん

未来をはぐくみ、こころの豊かさと新しい価値を創造し、 “緑と文化”を象徴する図書館

中央図書館は、いたばしポローニヤ絵本館を館内1階に併設し、板橋区平和公園の豊かな緑に囲まれた環境で、新たに生まれ変わりました。

未来をはぐくみ、こころの豊かさと新しい価値を創造し、“緑と文化”を象徴する図書館を基本理念に、板橋区の新たなランドマークとして運営しています。



板橋区立中央図書館
Itabashi Central Library

いたばしポローニヤ絵本館

北イタリアのポローニヤで毎年開催される、子どもの本専門の見本市「ポローニヤ児童図書展」に出品された絵本の一部が寄贈されています。

約100か国、70言語の海外絵本を揃えています。各国・地域に興味を持つきっかけとなるような絵本や多言語で翻訳された作品など、世界の絵本を楽しめます。



ゆっくりくつろぎ しっかり学ぶ 滞在型図書館の魅力

家具やインテリアは公園と一体となった特長を生かし、四季の移ろいをイメージした落ち着きあるアースカラーを軸とする内装デザインと統一したコンセプトとし、ゆっくり読書や学習ができる空間をつくっています。

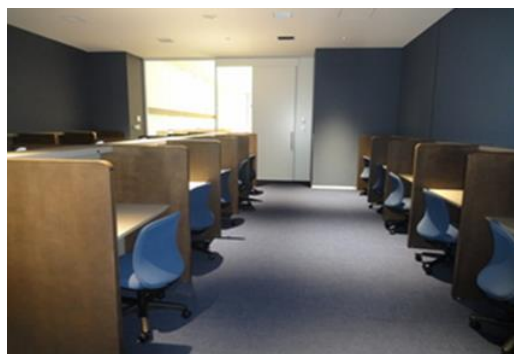


区民の書齋

区民の書齋をテーマにする3階は、深い木色で重厚感があり静寂と落ち着きを演出しています。

学習ルーム

学習ルームは区内図書館で、初めて席予約システムを導入し、読書や勉強に集中できます。



江戸時代の板橋に足を踏み入れてみませんか



旧粕谷家住宅とは？

享保8年(1723)に建てられた、関東地方で最も古い古民家の一つです。

徳丸脇村の名主であった粕谷浅右衛門がこの地に移り住んでからおよそ300年にわたって、変わることなくこの場所に建っています。

300年前の暮らしを感じる

関東地方における江戸時代中期の古民家に見られる特徴的な造りをもっています。

・3本の大黒柱 ・3間四方の広間

・床の間の原型となった押板

・土間から家に来る人が見えるしし窓

また、茅葺屋根の反りは寺院建築を取り入れた造りです。一步踏み入れれば、300年前から続く趣を感じられます。



四季を味わい、伝統を学ぶ

ひな人形や七夕飾り、年中行事をテーマに家の空間を野菜や果物で飾る室礼など、伝統を学ぶ活用事業を行っています。

七夕飾りでは訪れた方が短冊を書いて飾ったり、事業に子どもたちも参加したりしています。

様々な世代が、歴史や四季折々を感じながら互いに学び続けられるよう取組を進めています。



徳丸北野神社獅子舞

郷土芸能にふれる

旧粕谷家住宅がある赤塚地域には、多くの郷土芸能が受け継がれており、地域の歴史にふれる場として大切にされています。

これらの各保存会の協力を得て、近隣の学校では、子どもたちが郷土芸能を学ぶ「ふるさと文化伝承事業」を展開しています。旧粕谷家住宅などで実演を行うことで、子どもたちが事業で体験した郷土芸能を、実際に見られる機会を設け、学びの循環をめざしています。

大門餅つき



旧粕谷家住宅のこれからに向けて

板橋区は、旧粕谷家住宅を文化財として大切に保存しながら、地域の憩いの場、板橋の郷土芸能や歴史にふれる場として活用し、区の魅力発信に取り組んでいます。




区内の小・中学校や他の文化施設などとの連携、SNSなどの積極的な活用により、区内外のような様々な世代に板橋の魅力を広めていきます。それにより、板橋への愛着や地域のつながりをより一層豊かにすることをめざします。

旧粕谷家住宅

き
ゆ
う
か
す
や
け
じ
ゆ
う
た
く

●中高校生勉強会「学びi（あい）プレイス」の推進

中学生・高校生にとって、学力の定着・向上は重要な課題です。しかし、家庭に学習できる環境がない、勉強に意欲が持てない、不登校や高校中退など、何らかの理由で学習習慣が身に付かず学力が不足している、学習支援を受ける機会に接しにくいなどの課題を抱えた子どもたちもいます。中高校生勉強会「学びi（あい）プレイス」は、このような子どもたちを含め、広く誰でも無料で気軽に参加できる学習支援事業として実施しています。

	No.	21	事業名	中高校生勉強会「学びi（あい）プレイス」の推進		
	担当部署		生涯学習課			
事業概要						
<p>中学生・高校生（相当年齢の方を含む）を対象として、大学生のボランティアなどにより学習を支援する中高校生勉強会「学びi（あい）プレイス」を実施します。個々の状況に応じた寄り添い型の支援を中心として、苦手科目の克服や学習習慣の定着をめざします。また、ボランティアやスタッフへの相談や交流を通して、社会性や自己肯定感を高めるきっかけを提供するなど、居場所としての機能を高め、中高生年代の子どもたちの成長を支援していきます。</p> <p>学業成績や家庭の経済状況などを問わず、誰もがいつからでも参加できるよう通年で継続的に実施し、無料で気軽に利用できる学習機会と学びを通じた居場所を提供していきます。</p>						
取組における視点						
<p>誰もが参加しやすいよう配慮し、家庭や学校とは違う環境という事業の特性をいかして、既存のコミュニティに居心地のよさを感じられない子どもたちにとっても、学習をきっかけに新たな居場所を提供していきます。</p>						
目標			4年間の取組			
<p>気軽に参加できる学習機会を提供し、中高生年代の学びの支援と居場所づくりを推進する</p>			<p>区内5か所で中高校生勉強会「学びi（あい）プレイス」を通年開催し、学習支援と居場所の提供を行う</p>			

●世代を超えた「学びの循環」に向けた支援

板橋区では、世代を問わず主体的に学び、活動できる生涯学習の拠点として、生涯学習センターを運営しています。生涯学習センターでは、中高生・若者の活動や学習支援の場、居場所として「i-youth（あい・ゆーす）」を実施しています。今後も、あらゆる世代が自らテーマを設定し、仲間と集い、学びを深め、新たな仲間を広げる「学びの循環」の実現や、活力ある地域コミュニティの形成を支援していきます。

また、シニア世代の学習ニーズに応えるとともに、シニア世代の地域社会における活動を促進するための事業を行っている「板橋グリーンカレッジ」や、板橋区民文化祭などを通じて、区民が文化芸術活動を楽しみ、参加できる機会を提供し、地域文化の活性化をめざす「板橋区文化団体連合会」があります。このような取組の状況も踏まえ、世代を超えた「学びの循環」に向けた支援をしていく必要があります。

居場所 づくり	No.	42	事業名	中高生・若者支援の拡充と活性化	学びの 循環	4 質の高い教育を みんなに
	担当部署		生涯学習課			

事業概要

中高生・若者が、利用しやすく、安心・安全な居場所をつくり、また、交流の機会を設けることにより、仲間づくりを促進します。さらに、学習の成果を共有する場の拡充を進めます。主体的に社会に参加する中高生・若者を支援するため、多世代との交流や相互学習の場を設けます。

板橋区内外の大学、高校、NPO・ボランティア団体などの世代を超えた多様なネットワークを形成し、若者の活動の支援を促進する仕組みをつくっていきます。

中高生・若者が自立し、社会参画の気運を醸成するため、居場所づくり・仲間づくりを支援します。具体的には、「①来所者がお互いに心地良く利用できるような話し合いの提案」、「②施設の運営に関わる機会の提供」、「③関心のある事業の企画・運営の参加機会の提供」を行います。それにより、同世代及び他世代との学び合いを促進し、学びの輪を広げる「学びの循環」を実現します。

取組における視点

中高生・若者支援スペース i-youth の事業の企画・運営を通じて、若者が自ら活動を起こし、他者と共に活動を広げ、深める経験ができる環境を整備します。これらの活動により、不登校などの生徒や孤立している若者にとっても、安心・安全な居場所となることをめざします。具体的には、①若者の自発的活動を促進し、若者が i-youth 及び事業の企画運営に参加・参画します。②多様な若者支援機関・施設・団体との協働により、i-youth の若者支援機能を充実させ、板橋区の若者支援者層を厚くし、ネットワークを広げます。③学校・関係機関・施設・団体との連携により、様々な課題を持つ中高生・若者の気持ちが穏やかに過ごせる居場所をつくります。④中高生・若者が事業を企画・運営し、その活動から得た学びを同世代及び他世代にも広げます。




目標	年度別計画		
	令和4年度	令和5年度	令和6・7年度
中高生・若者が事業に参加するだけでなく、企画・運営に関わり、同世代及び多世代と学び合うことにより、学びの輪を広げる「学びの循環」を実現する	①i-youth ダンスフェスタなどを通して、企画・運営を担う中高生に対して、活動経験のある若者が支援する学びの循環を開始する ②若者が生涯学習センターで活動する成人グループとの交流を試行する ③若者支援を行う団体の協力を得て、不登校の生徒や様々な課題をもつ若者に対する相談機能や学習支援機能をスタートさせる	①i-youth ダンスフェスタなどを通して、企画・運営を担う中高生に対して、活動経験のある若者が支援する学びの循環を積み上げる ②若者が生涯学習センターで活動する成人のグループとの交流が継続される ③若者支援を行う団体の協力により、不登校の生徒や様々な課題をもつ若者に対する相談機能や学習支援機能が継続される	

●中央図書館の事業拡大と「絵本のまち板橋」の推進

「人生100年時代」を豊かに生きるためには、生涯を通じた学びの場と機会が必要とされ、地域の図書館はその大きな役割を担います。

板橋区には現在、中央図書館と地域図書館を合わせて11館の図書館があり、中央図書館は、海外絵本の図書館である「いたばしボローニャ絵本館」を併設しています。これまで、世代を問わず読書ができる環境を提供するほか、ボランティアとともに、読み聞かせや視覚障がい者向け対面朗読サービスなど、多くの利用者に読書の魅力を伝える事業や、子どもの読書活動の推進を行ってきました。

中央図書館は、令和3（2021）年3月に、区立図書館の新たな中心館としてリニューアルオープンし、多くの方が来館しています。今後は、すべての世代に向けて電子図書館の導入など区民ニーズに対応したサービスを拡充し、生涯を通じてこころの豊かさと学びを支える図書館をめざします。

	No.	43	事業名	生涯を通じた読書活動の支援		
	担当部署		中央図書館			
事業概要						
<p>令和3（2021）年3月に開館した新中央図書館を中心に、課題解決、学校・家庭との連携、趣味・嗜好の充足など、利用者の年代やニーズに沿った学びを深める読書環境の整備・充実を図っていきます。</p> <p>また、乳幼児期から本に触れ、成長に合わせた読書活動を行える資料を提供していきます。</p>						
取組における視点						
<p>成長や興味の変化、ICT化の推進など、読書環境が変化する中、必要な情報が得られる場を提供していきます。</p>						
目標			4年間の取組			
<p>幅広い世代のニーズに応えるとともに、成長段階にあわせた、継続的な読書活動支援をめざす</p>			<p>①ブックスタート、おはなし会、図書館サポーター養成など、世代に応じた事業を推進する</p> <p>②図書館ホールを活用した、多分野の情報を発信する</p>			

●板橋区の歴史・産業・文化の発信による新たな魅力・価値の創出

区内には価値のある文化財が多く存在します。区として貴重な文化財を確実に保存し次世代に引き継ぐのはもちろんですが、適切・効果的な活用により、板橋区の魅力を高めることができます。

加賀一丁目周辺に所在する旧野口研究所、旧理化学研究所、加賀公園が含まれるエリアは、江戸時代には加賀藩下屋敷の内にあり、明治時代初頭にその跡地の一部に日本で初めての官営火薬製造所が設置された場所となっています。平成 29 (2017) 年に「陸軍板橋火薬製造所跡」として国の史跡に指定されました。加賀地域が持つ歴史・文化の特性を再確認し、貴重な近代化遺産を保存するとともに、まちづくりや観光施策と連動した文化財の適切な活用を図っていきます。

旧粕谷家住宅は、江戸時代の徳丸脇村名主が隠居した家であり、当時の歴史や文化を今に伝える貴重な文化財として、平成 30 (2018) 年に東京都の有形文化財に指定されました。享保 8 (1723) 年に造られた、関東地方では最古級の古民家です。今後は、観光・文化資源として地域と一体となった新たな魅力を創出し、区内外へその価値をアピールしていきます。

郷土資料館は、令和 2 (2020) 年に再整備事業が終了し、区立美術館、郷土芸能伝承館、旧粕谷家住宅と併せ、赤塚地域の魅力を発信する拠点としての機能が期待されています。また、社会教育施設として、学校教育との連携をさらに深め、次世代の郷土愛の醸成にもつなげていく必要があります。今後も、区の歴史や文化を広く区内外に伝えながら、区の魅力をアピールできる展示や関連事業を着実に進めていきます。

郷土芸能(民俗文化財)にふれる



板橋区は、古くから農業が盛んな地域でした。荒川沿いの低地にあたる、現在の高島平地域は、「赤塚たんぼ」、「徳丸たんぼ」と呼ばれる広大な水田地帯であり、大規模な稲作が行われてきました。このような歴史的環境によって、板橋区には、農業に関わり、五穀豊穡や子孫繁栄、村内安全を祈願する「田遊び」、「獅子舞」、「四ツ竹踊り」など多様な郷土芸能が生まれ、伝承され、今日も変わらずに演じられています。





徳丸北野神社田遊び

中でも、徳丸北野神社と赤塚諏訪神社において旧正月(2月)に行われる国指定重要無形民俗文化財の「板橋の田遊び」は、年始にあたり一年間の稲作の様子を演じる、耕作始めの儀式です。1千年を超える歴史を持ち、その間一度も中断していないと言われています。

演技では、子どもたちが「早乙女」役で出演し、たんぼの替わりである太鼓の上で高く持ち上げられます。早乙女は「稲穂」を表現しているとされ、稲や子どもの生育を表現し、その年の豊作や村内の安全をお祈りします。区の郷土愛の原点とも言える大切な文化財です。

No.	46	事業名	板橋区史跡公園（仮称）の整備		 
担当部署		生涯学習課			
事業概要 陸軍板橋火薬製造所跡として国の史跡に指定された野口研究所・理化学研究所・加賀公園一帯に対し、各種計画策定、設計、工事といった整備事業を行っていくことにより、近代化遺産として保存し、多様な人々が憩い、語らえ、再び訪れたいくなる史跡公園として活用します。また、史跡公園開場後は来場される区内外の多くの人々が展示などを通じて板橋の歴史や文化を学ぶことができる施設づくりを行っていきます。					
取組における視点 史跡公園を板橋の新たなシンボルとし情報を発信していくことで、「ものづくりの板橋」としてのブランド力のさらなる向上と定着を図っていきます。					
目標		年度別計画			
		令和4年度	令和5年度	令和6・7年度	
史跡公園の整備工事に向けた各種基本設計の完了と、実施設計の着手をめざす		①各種調査 ②展示事業	①史跡公園整備 ②基本計画策定 ③展示事業	①各種基本設計 ②展示事業	

No.	47	事業名	旧粕谷家住宅の公開		 
担当部署		生涯学習課			
事業概要 旧粕谷家住宅は、平成27（2015）年度から行われた復元整備工事によって、江戸中期の建立当初の姿となり、都内で最古級の民家として、平成29（2017）年度に都有形文化財に指定されました。さらに、茅葺屋根という建築的特徴から防災機能の強化を図るため、令和元（2019）年度から放水銃などの防消火設備及び管理棟の設置といった施設整備を行い、令和4（2022）年3月に完了しました。 これらは旧粕谷家住宅保存活用計画で定めた方針に沿った取組であり、今回の体制整備後においても屋根修復などの整備を定期的実施していきます。一方で一般公開の再開はもとより、様々な事業展開を図っていくことにより、文化財の適切な保存と活用を推進していきます。					
取組における視点 旧粕谷家住宅の所在する赤塚地域を面的に捉え、美術館、郷土資料館、郷土芸能伝承館といった文化施設などと相互に連携を図っていき、文化的な魅力を多く持つ当該地域の活性化、ひいては板橋独自のブランド力の向上に資する取組を行っていきます。					
目標		年度別計画			
		令和4年度	令和5・6・7年度		
生涯学習文化財のもつ地域性や特異性に触れる機会を通じて、郷土愛を育む取組を推進していく		①一般公開を再開し、事業の展開を図る ②施設の維持管理を行う	公開活用のための事業や学校教育に関して近隣の区立小・中学校などとの連携を強化した取組を展開していくとともに、文化財の保護措置として再整備の必要性について検討する		